

会 議 次 第

日 時 令和3年3月23日（火） 午後2時00分～

場 所 オンライン会議にて開催

1. 開 会

2. 挨拶 生涯学習部長

3. 議 事

(1) 事業報告

(2) 意見具申の範囲と今後の保存について

～同意交渉の継続等と保存活用計画～

(3) 調査成果と今後の課題について

(4) その他

4. 閉 会

令和2年度第2回船橋市取掛西貝塚調査検討委員会委員名簿

委員 5名
(敬称略)

No.	氏名	ヨミ	所属等
1	阿部 芳郎 (委員長)	アベ ヨシロウ	明治大学教授・ 船橋市文化財審議会委員
2	樋泉 岳二 (副委員長)	トイズミ タケジ	早稲田大学講師・ 明治大学研究・知財戦略機構 研究推進員
2	佐々木 由香	ササキ ユカ	明治大学黒耀石研究センター 客員研究員
3	谷口 康浩	タニグチ ヤスヒロ	國學院大學教授
4	堀越 正行	ホリコシ マサユキ	元市立市川考古博物館長

オブザーバー 3名
(敬称略)

No.	氏名	ヨミ	所属等
1	斉藤 慶吏	サイトウ ヤスシ	文化庁文化財第二課 文化財調査官
2	永塚 俊司	ナガツカ シュンジ	千葉県教育庁教育振興部文化財課 埋蔵文化財班 主任上席文化財主事
3	吉野 健一	ヨシノ ケンイチ	千葉県教育庁教育振興部文化財課 指定文化財班 主任上席文化財主事

議事(1): 事業報告

(1) 調査報告書の刊行等

- ①「取掛西貝塚総括報告書」の刊行
1～8次調査の総括報告書を刊行(A4版・682ページ・図版150枚・2分冊構成)
- ②「取掛西貝塚(5)II」の刊行
取掛西貝塚5次調査報告書(遺物編)を刊行(A4版・303ページ・図版86枚)
- ③「取掛西貝塚(5)I」の増刷
取掛西貝塚5次調査報告書(遺構編)を増刷(200部)

(2) 企画展等

- ①飛ノ台史跡公園博物館20周年記念巡回展「かわる生活様式 船橋の縄文時代早期」
会期: 令和2年11月7日～12月6日(飛ノ台史跡公園博物館)
令和2年12月19日～令和3年1月31日(郷土資料館)
※新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館のため、会期を12月25日までに短縮
内容: 取掛西貝塚出土土器(井草式、東山式、大浦山式)を展示
- ②千葉県立中央博物館令和2年度企画展「ちばの縄文 貝塚からさぐる縄文人の暮らし」
会期: 令和2年10月10日～12月13日
内容: 取掛西貝塚出土土器(東山式)、ツノガイ類製品を展示用に貸出し

(3) 講演会「取掛西貝塚講演会～1万年前の縄文ワールド第4弾～」(令和3年度に延期)

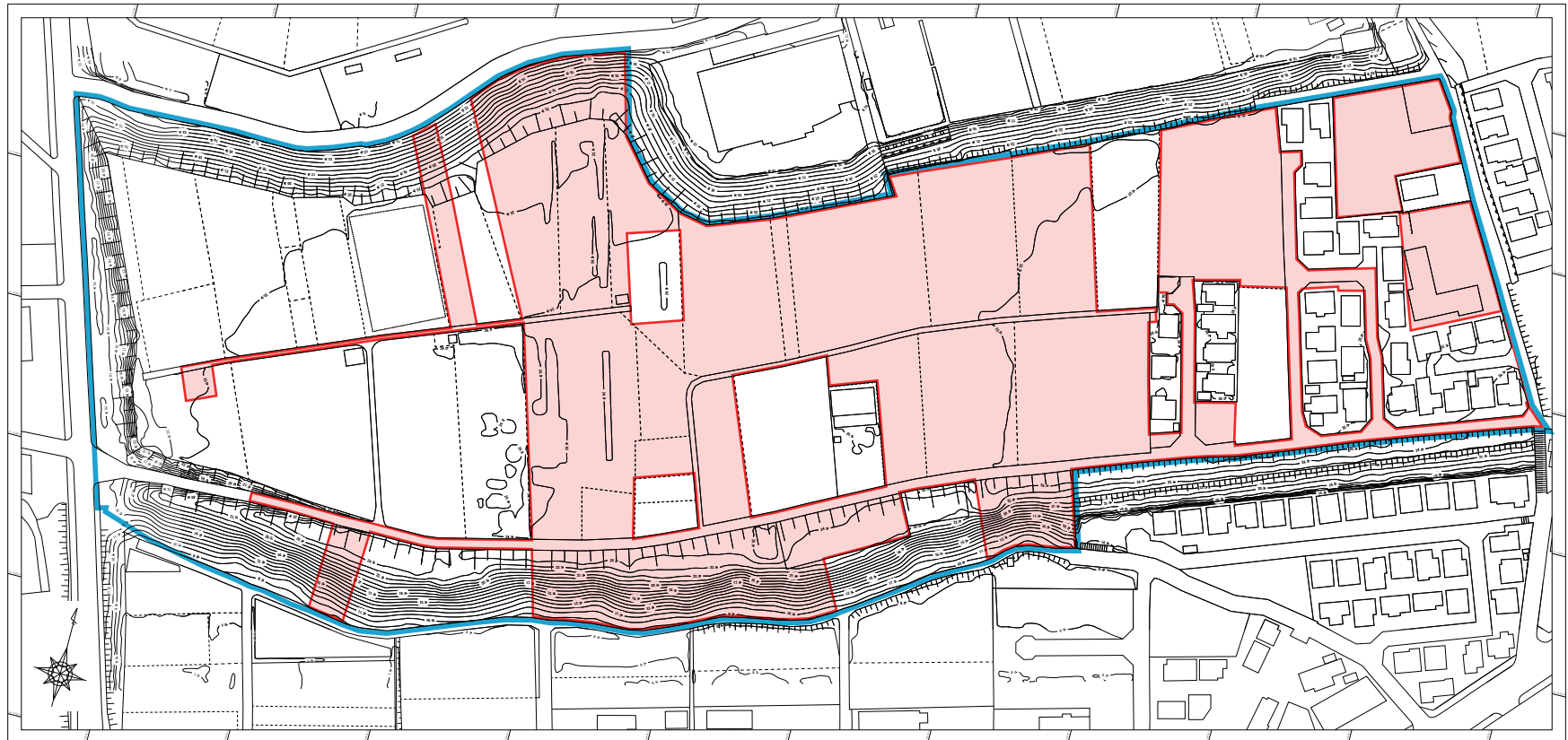
- 講師: 白崎主任主事(船橋市埋蔵文化財調査事務所)
佐々木由香氏(明治大学黒耀石研究センター客員研究員)
禰亘田佳男氏(大阪府立弥生博物館長)
- 内容: 調査報告「取掛西貝塚3か年の調査成果について」(仮)
講演1「取掛西貝塚からみた縄文時代前半期の植物利用」(仮)
講演2「史跡の保存と活用 ～取掛西貝塚に期待すること～」(仮)
- 日程: 当初3月13日(土)開催を予定→新型コロナウイルス感染拡大により延期。
開催を8月14日(土)に延期(講師の内諾済み)
- 会場: 船橋市勤労市民センター

(4) 普及用パンフレットの作成・配布

- ・児童向けパンフレット「1万年前の世界をのぞいてみよう 取掛西貝塚」3月刊行
発行部数: 1万5千部 市内小学6年生を中心に配布予定(令和3年度)
- ・リーフレット「取掛西貝塚ってどんな遺跡?」(第2版)2月末刊行
発行部数: 2万部 市内小学6年生を中心に配布予定(令和3～4年度)

(2) 意見具申の範囲と今後の保存について

 取掛西貝塚 国史跡指定意見具申の範囲 (39,032.42㎡)



同意取得 39,032.42㎡ / 史跡候補地 73,372.40㎡
(史跡候補地の53.2%)

(3) 今後の課題と継続研究の実施について

年代観と定住性の評価

- ① 早期前葉集落の年代について
 - ・ うまくいかなかった原因について専門家を交えて議論する。
 - ・ 既存試料でより測定の精度向上が期待できる方法はないか検討する。

※ 10T-008 土坑（取掛西Ⅰ期）の炭化種実等の全体像について機会を設けて報告
- ② 貝殻成長線分析による貝類採取季節の検討
 - ・ 早期前葉の貝類採取季節の検討
 - ・ 前期前半も分析し、比較する。将来は市内の他遺跡と比較していきたい。
- ③ 5次 SI-002 の貝層堆積時間について
 - ・ 層位が明確なコラムサンプル試料で年代測定を行い、貝層堆積の時間幅を検討したい。
- ④ 早期前葉の土器研究（編年）からのアプローチ

5次 SI-002 動物骨集中について

- ⑤ SI-002 動物骨集中についての検討
 - ・ 事実関係を押さえた上で類例を集め、解釈について検討を進める。検討にあたっては、貝層中の焼土面の検証・位置づけもあわせて行う。

古環境の復元について

- ⑥ 古環境の復元
 - ・ 周辺の既存ボーリングデータのさらなる検討や新たな試料採取・分析など（遠藤先生に要相談）。
 - ・ 計画的に船橋市の古環境の復元を進めていきたい。

※ 海老川上流地区の区画整理工事の際に、断面観察と試料採取の機会を得られるように事業者と協議している。

植物利用

- ⑦ 土器圧痕調査
 - ・ 8次調査分の土器圧痕分析を行う。これにより取掛西Ⅱ・Ⅳ期の事例を補足し、基礎資料とする。
 - ・ さらに取掛西貝塚の前期前半についても悉皆調査を行う。これらの成果を基礎として、将来は市内他遺跡も分析し、比較していきたい。

※ 土器圧痕はあくまでも土器作りの場での植物利用の一端を示すものであることに留意する。

整備に向けて

- ⑧ 早期の住居構造の検討
 - ・ 調査成果（10T-001 住居跡と5次調査地点の住居跡）をもとに、建築の専門家と早期前葉の住居構造について検討する。他遺跡の事例も図面で比較検討する。将来的には検討結果を基に再発掘調査も視野に入れる。

流通・交流

⑨ 黒曜石の産地同定

- ・ 肉眼鑑定で信州産と判定されている。蛍光 X 線分析を行って化学的に産地同定を行い、確定する。
- ・ 将来的には、市内の早期~中期の各時期の遺跡を分析し、通時的に比較していきたい。

⑩ 早期の土器胎土分析

- ・ 特徴のある土器胎土を分析し、土器分類と胎土分類の比較を行う。その上で他遺跡と比較し、交流を考えていきたい。

その他

⑪ 弥生時代

- ・ 地権者採集品（大陸系磨製石斧）の資料化

成果の発信について

- 成果は継続的に刊行物等で発信し、シンポジウム等にもつなげていきたい。